

## 日清製粉グループ 中間連結決算

**中間通期共、増収増益。経常利益は3年連続で過去最高、純利益も過去最高更新。**

### [平成18年3月期中間連結決算]

株式会社日清製粉グループ本社（社長 長谷川 浩嗣）の平成18年3月期中間連結決算につきましては、「成長」を基本命題とする第二次中期経営計画がスタートし、各事業において販促活動や、新チャネル開拓を積極的に進め出荷伸長を図った結果、利益は過去最高を更新いたしました。特に、水溶化コエンザイムQ<sub>10</sub>製品の市場への浸透を進めた日清ファルマ㈱、大口工事が完工した日清エンジニアリング㈱が業績を大きく向上させました。

売上高は2,117億61百万円（前年同期比3.8%増）と増収となりました。利益面におきましては、「成長」に伴う戦略的な販売促進費等の支出増加を吸収し、経常利益は116億円（前年同期比6.3%増）と3年連続で過去最高となり、中間純利益も62億44百万円（前年同期比13.2%増）と過去最高を更新いたしました。

### [平成18年3月期通期連結業績予想]

中間期の業績は順調に推移いたしましたが、通期業績予想の経常利益につきましては、小麦粉、ドライ加工食品など主力製品の市場環境は業界全体の出荷が前年を下回る厳しい状況が続いていることから、当初予想通りとしております。

当社グループにおきましては、今後も海外事業、中食・惣菜事業をはじめとする成長領域へ経営資源を投入し、新市場開拓を進めるとともに、製粉事業、加工食品事業等において主要製品のシェアアップ、コスト体質強化など事業基盤確立施策を推進してまいります。

通期業績予想は、売上高は4,290億円（前期比3.1%増）と増収の見込みです。利益面では、経常利益は255億円（前期比1.5%増）と3年連続で過去最高を更新する外、当期純利益は持分法適用関連会社の利益貢献もあり前期にIT投資減税を適用した影響を吸収し、137億円（前期比0.8%増）と2年連続で過去最高となる見込みです。

### [積極的な利益還元]

当社では、前期は年間配当を1株当たり3円増配し14円とするなど、過去から株主の皆様への利益還元を積極的に進めており、当期におきましても、さらに年間配当を1円増配して15円とし、4年連続の増配を予定しております。当中間期におきましては、既に公表しておりますように中間配当として1株当たり1.5円増配し7円とさせていただきます。また中間期までに自己株式の取得を2,000千株、22億96百万円実施するとともに、本年11月18日付をもって普通株式1株を1.1株に分割させていただきます。今後も利益還元を機動的に行ってまいります。

なお、株式の流動性向上、個人投資家層の拡大を図るため、1単元の株式数を本年10月3日付をもって1,000株から500株に引き下げました。

以 上